

この学校だよりや掲載されている行事等の様子は、本校のブログでも御覧いただけます。

令和5年度 韮崎北東小学校 学校だより

# たかの子通信

令和5年10月27日  
第6号

発行責任者  
校長 小林 康人

学校だより「たかの子通信」をお届けします!

メール配信

## 第34回 秋季大運動会を開催しました

～ 生き生きと活動する姿に大きな拍手が… ～

運動会当日の朝、教室ではすでに子ども達のボルテージが上がっています。運動会の歌、応援等で、どのクラスもリーダーの児童を中心に気持ちを高めている様子が見られます。そして黒板にもメッセージが、子ども達も担任も、ともに創る運動会をめざして取組を進めてきた様子を感じられます。運動会の成功を確信しました。



**1・2年生**のリズムは、「じぶんらしく～きみはそのままがいい～」です。お気に入りの帽子をかぶり全体で表現します。半年前に入学したとは思えない1年生の成長ぶりと、2年生のお兄さん、お姉さんぶりが見られました。お家の人が見に来てくれていることが嬉しいのでしょうか。素敵な笑顔と動きのよさは、この日が一番でした。

**3・4年生**は、「北東小ソーラン2023」です。子ども達の演技を4本の大漁旗がさらに大きなものにさせてくれました。これは、気仙沼の漁師さんから穴山地区へ贈られた本物の大漁旗です。東日本大震災で船ごと津波にのまれてしまい、それを沖へ出て漁師さんが回収したそうです。復興支援として行っているサンマ祭りのお礼として、贈られたようです。その意味も伝えられている3・4年生は、震災の時にはまだ生まれていませんが、その大切さを踊りに込めているようでした。お見事です。

**5年生**は、組立体操「STAR～61人の挑戦～」です。全員で創り上げたチームワークのよさが輝いています。どの技もしっかり完成させ、練習へのひたむきな取組が感じられました。ふだん学校生活で見られる5年生の仲のよさ、前向きに頑張ることのすばらしさを理解して当日に臨んだまさに完璧な演技でした。

**6年生**は、「マーチング2023『神話になれ』」です。これまで、学校の大黒柱となって活躍してきた6年生の演技は、小学校での運動会もこれが最後、そう思うとなんだか寂しさが募ります。すべての思いを込めて運動会の最後を飾ります。「色組の気持ちを高める会」から、いやもう4月からすべての行事に「最後の」という枕詞が付きませんが、しっかり責任を果たしてきました。これまでの行動とリーダーシップの証でもあります。開閉会式でも進行や思いの込めた言葉に、自覚のある行動をしてきたことを感じました。

きっと児童の皆さん全員が、やり終えた達成感に満たされたことでしょうか。また、十分力を出し切れた運動会だったのではないのでしょうか。そんな子ども達を誇りに思います。そして、この自信が、今後学校生活の様々な場面で、さらなる意欲や頑張る力となることを感じました。



日々様子は韮崎北東小ブログでも紹介しています。ご覧ください。

## 秋の大きな実りへと ～校外学習、心の教育授業～

【1年生 校外学習 中央公園へ】澄みわたる青空、校外学習には最適です。徒歩で葦崎中央公園に行きました。時々利用することはありますが、友達と行くのははじめてです。お弁当とおやつをリュックサックに入れて準備万端です。出発前の教室での様子もいつも通りです。落ち着いて行動している様子に成長を感じます。しっかり者の一年生です。



秋の宝物をたくさん持って帰ってきました。帰ってきても疲れた顔を見せず、出発の時と同じように話をしっかり聞くことができる姿に頼もしさを感じました。

【2年生 ニコリへ】2年生は、ニコリで葦崎の町の様子を知り、施設の見学を通して働く人の様子を学びます。もちろん学年全体で行動するので、公共のマナーをしっかり守って、集団行動の仕方も学びます。秋晴れの下、みんなで行く校外学習に気持ちも弾みます。月末には、葦崎駅の見学も行います。地域のことを知り、さらに住んでいる地域のことが好きになります。見学後に施設長さんから、「北東小の2年生は、難しい施設の話をしっかり聞いて、見学態度もとてもよくてすばらしかった」との言葉をいただきました。



【3年生 心の教育授業】葦崎市教育委員会の関間様を講師に学習をしました。授業が始まると、これまで調べたことも出てきます。講師の問いかけにテンポよく反応しています。葦崎市について、まだ知らないことがたくさんあり、興味が広がります。車や電車がなかった時代に塩川が大きな役割を果たしていたこと、茅ヶ岳で亡くなった作家の深田久弥が前日に穴山に泊まっていたこと、新府城が昔は県庁所在地だったこと、葦崎にあるマンホールのふたの絵について（葦崎市は市の鳥チョウゲンボウ）、ウーラ（土偶）が北東小のすぐ近くで発掘されたことを知りました。

【4年生 わーく穴山の里へ】総合では福祉について学習を進めてきています。4月には車いす体験をしたり、6月にはわーく穴山の里の職員の方に来ていただき、障害のある方が社会参加をする様子について話を聞いたりしました。今回はもう少し深めます。施設を訪問し、実際に仕事を進める様子や社会参加のために「相談する」「確認する」ことの大切を理解することを目的に行います。実際、私たちが生活する中で周りの人のことを考えたり、助け合ったりすることが必要とされています。共生社会の実現にむけて、子ども達自身が考えて行動してくれることを願っています。

【5年生 心の教育授業】海外でのボランティア経験のある久保弘恵さんをお招きしました。久保さんはモンゴル、カンボジア、ネパールでのボランティアをした経験があります。ネパールでの様子を、時折ネパール語を使いながら話してくれました。アジア最貧国と言われているネパールは、人身売買、臓器売買は南アジアでトップです。電気も点かない、一日16時間停電も…、日本での当たり前が通用しません。ただ時間の経過とともに、その当たり前を受け入れられるようになりました。今の生活に感謝しながら、自分の知らない世界に興味を持つことができました。

【6年生 県立博物館・考古博物館へ】6年生は県立2館を訪問し、やまなしの自然、人、文化、そして歴史的な遺産に触れ、今後の社会科の学習をさらに深めました。また火起こし体験も行いました。「百聞は一見に如かず」、見学や体験を通して、学びを深めてくれます。さて6年生、火を起すことはできたのでしょうか。今は生活の中で火を使うこともほとんどありません。生きていく力になることでしょうか。

